

令和7年度 第2回向日市地域包括支援センター運営協議会要点録

1 日 時：令和8年2月4日（水） 午後3時から午後4時まで

2 場 所：永守重信市民会館1階第1会議室

3 出席者

（出席）清家委員、坂根委員、岡本委員、乾委員、糸委員、高桑委員、大森委員
（以上7名）

（欠席）若江委員、岡田委員

（事務局）柴田市民サービス部長、田口高齢介護課長、齋藤係長、内海係長、中村係長、
木村北地域包括支援センター長、村上中地域包括支援センター長、
重田南地域包括支援センター長

（傍聴者）なし

4 議 事

（1）令和7年度向日市地域包括支援センター事業中間報告について

（2）令和8年度向日市地域包括支援センター事業方針（案）について

5 資 料

資料1 「令和7年度向日市地域包括支援センター事業中間報告」

資料2 「令和8年度向日市地域包括支援センター事業方針（案）」

資料2-2「向日市地域包括支援センター運営基本方針（参考資料）」

6 内 容

議事(1) 令和7年度向日市地域包括支援センター事業中間報告について

・事務局から、令和7年度の地域包括支援センター事業実績（相談実績やケアプラン作成数、地域ケア会議など）について説明を行った。

（資料1）

【質疑応答・意見要旨】

委 員 資料1の地区別地域ケア会議（ケース検討）の内容について、今まで記述があったが割愛したと説明を受けた。委員の皆様には配布された前回協議会の要点録の中段に、任意後見制度についてのやり取りがある。これは地域包括支援センターのケース対応で、任意後見制度が進んでいたが、本来であれば法定後見制度で対応していく問題ではなかったのかと思い、質問したやり取りだ。向日市の場合、法定後見制度で、市長申立を今まで何回行われているかと質問したが、ここ数年は無かった

と返答があった。これは他の自治体や京都市では、市長申立が実際みられており、法定後見制度と任意後見制度の区別についても、事務局の説明も少し物足りなかった。

地域の中で、判断能力が低下することにより、日常生活が困難になってきた方をサポートするための後見制度であり、法定後見制度、任意後見制度の二つの制度をどのように使い分けてサポートしていくかということは非常に重要だ。もし高齢介護課の職員がそれに関してあまり詳しくない場合には、向日市や専門職員の皆様にいろんな意見を聞くことによって、埋め合って、一番妥当なフォローをしていくことが、非常に重要なことではないかと思う。ゆえに、そのようなことについて、非常に広い視野から論点を拾い上げ、議論を深めていくことが、非常に重要な部分だ。そのきっかけになるようなこの事例検討を割愛することは問題ではないかと思う。

もう一つは、地域包括支援センターの皆様が非常に幅広くいろんな問題に対応し、そしてその中で一番適切な対応方法を選定するところに、適確なアドバイスをしてくれる協力者が絶対に必要だ。ゆえに、そのようないろんな視点で、地域ケア会議を進めていく。それが、厚生労働省の考えていた地域ケア会議の元々の姿ではないかと思う。2016年に、厚生労働省が地域ケア会議について説明した文書を出した。当時、地域包括ケアシステムという言葉が厚生労働省が前面に出していた。地域の中で、非常に多面的に存在してくるいろんな問題に対応していく地域ケア会議を踏まえた上で、地域包括ケアシステムを作っていきたいと記載されていたと記憶している。そのような変化を踏まえても、この地域ケア会議の個別の検討部分を、簡単に割愛してしまうのは、少し具合が悪いと思う。

特に、地域包括支援センターの皆様が、どういった点で苦勞しておられ、そして困ったことにぶち当たっていくかは、この簡単な箇条書きでは全体的な把握をすることはできない。この地域包括支援センター運営協議会の委員の我々も、実際に地域ケア会議の中身に関しては、この場でしか知ることにはできない。その場でいろいろと問題を与えられ、そしてみんなで知恵を出し合い、そして適切な対応を考える。その場としてやはり、この地域ケア会議のケース検討部分を資料から割愛するというのは、少し具合が悪いのではないかと考え、意見した。

会 長 今の論点を整理すると、地区別地域ケア会議のケース検討の詳細な事例を外したのはおかしいのではないか、この場でしか情報がわからないので、そのまま記載しておくべきではないかという論点で合っているか。

委 員 合っている。

会 長 それに対して、説明をお願いします。

事務局 例に挙げていただいた成年後見に関して、いろんな観点を持って支援をしていかなければならないと思っている。そういったご指摘は本協議会でも、いただき

たいと思っており、事務局ももちろん、本協議会の委員の皆様と共有することは非常に大事なところだと思っている。

個別の地域ケア会議を載せていたことをきっかけに議論や協議が始まることもあったが、先程申し上げた通り、1センターあたり、概ね月1回実施しているため年間12回、それが3センターで36回あり、その概要を1ケース1ケースずつ細かく載せていた。もちろんそこから議論が始まることもあるが、例えば、他にも相談内容別の件数を、これまでの協議会の中でいろいろとご意見をいただきながら細分化をしてきたものを記載している。この中で、例えば権利擁護に関する相談が何件あるか、そういったところを見てそこから権利擁護の議論を進めていただき、今おっしゃった成年後見についても、議論として出していただくことは可能ではないかというところもあり、このような形にした。

会 長 今の事務局からの説明に私から、加えさせていただく。そちらを踏まえ、質問された委員だけではなく、他の委員の先生方からもご意見いただきたいと思う。

地区別地域ケア会議のケース検討部分は、もちろん個人情報には載っていないが、非常に詳細な情報が載っており、誰のことかわかる人にはわかるリスクがある。この場合は事例分析をする場ではないので、詳細な事例を載せるかどうかの相談を受けたときに、それぞれを詳細に記載する必要はないのではないかと、会長の意見として進言した。

他の委員の先生方も、やはり今まで通り事例を載せるべきだという意見もあれば、軽減させて概要だけでも載せたほうがいいのかとご意見もあろうかと思う。協議会の場のため、本日ディスカッションすればいいのではないかなと思うが、事務局いかがか。

事務局 ありがとうございます。よりよい資料になるようにと思っているので、ご意見いただけたらと思う。

会 長 では、質問された委員をはじめ、他の委員の先生方からぜひご意見いただきたい。今まで通り載せるべきか、少し軽減させたらどうか、あるいは本日の状態でいいのではないかとそれぞれのご意見をお持ちだと思うので、皆さまよろしくお願ひします。

委 員 会長の意見に賛成で、あくまで事業の対応を報告というよりは、運営面をより話すことが重要ではないかと思っている。たしかに個人情報の関係も多くあり、他でもかなり厳しくなっているところを、オープンにしていくことも違うのではないか。あくまで事業全体が円滑に、委員の意見を聞き、生かしながら、適切に運営できることが大切ではないかと思う。

委 員 記載するかどうかについて、先生がおっしゃったように、個人が特定される恐れやこの協議会の目的から少し外れる部分もあり、記載は必ずではないと思う。どうしてもその部分を知る必要がある場合は、どのような傾向があるか、特定の

ケースのことではなくて、傾向について記載してもいいのではないかと思います。

委員 運営を協議する場ということであれば、個別のケースをここで話し合う必要はないかと思います。どうしても地域ケア会議をこの協議の場に挙げないといけないという話があるのであれば、そのケースだけ挙げる方がいいのではないかと。

委員 すべてのケースをやっていくと、とんでもない数になり、今おっしゃられた通り、大きな枠組みでどうしてもこの場で話さないといけないということがあれば、ぜひ話し合いに参加させていただければと思うので、現状のままでいいのではと思う。

委員 私も個人情報の漏えいに関しては、これはとても問題だが、配布される実績報告や従来皆様に配布されてきた記載内容から、個人を特定できるということは、まず困難だと思う。第一、この地域包括支援センター運営協議会が本日ここで開かれているということ、一般の人がどれだけ知っているか。ほとんど知らない。以前、向日市介護者の会の委員の方に、向日市の高齢者福祉計画及び介護保険計画策定委員会の一つの議題について、参加してみませんかと依頼したが参加されたのはその1回だけ。実際向日市でこのような会議を開いて、その中身に関してどんなことが行われているか、その情報が第三者に漏れるということの心配はないのではないかと。もう一つ言えば、記載されている内容から、本人を特定することはまず困難だろう。成年後見制度や実際の支援の中身に関してどのように運用されているかということを皆様と考えることが非常に重要であり、そのような意味から、従来の方法で継続したほうがよいと思い私は意見した。

会長 今のままでいいのではないかという意見が多い状況ではあるが、委員がおっしゃっている点も加味しながら、次回以降も引き続き考えていきたいと思う。

議事(2) 令和8年度向日市地域包括支援センター事業方針（案）について

・事務局から、令和8年度向日市地域包括支援センター事業方針（案）について説明を行った。

（資料2、2-2）

【質疑応答・意見要旨】

委員 前回も言ったが、地域包括支援センターの働き方のところで、生産性向上と働き方を変える流れで、地域包括支援センターだけは、開始以来どちらかというとアナログに振っているイメージで、パソコンにインターネットを繋いではいけない、生成AIを使えない。面談の時にクラウドや生成AIを使うことはできているが、そういうことがほとんどアナログのまま動いていて、でも業務量はどんどん増えてきている状態がある。

パソコンの中にインターネットは確実に入れて欲しいということと、GoogleのGeminiといった生成AIについては、個人情報の兼ね合いがひっかかると思って

はいるが、Google で個人情報漏れるような場合は日本全体の大きな話であって一部の話ではないと思う。問い合わせに関しても、チャットボットで事前に拾えることは拾い、地域包括支援センターについても、業務効率をより考えていく必要があると思う。ケアマネジャーがどんどん減っている状況であり、そういった点も意識してもらえたらと思った。

会 長 地域包括支援センター側からのご意見として、業務の効率化、AI 化が話題になっているがいかがか。

事務局 委員がおっしゃっていただいた AI の活用において、AI を入れることで、やりとりや訪問したところをどうまとめるか等、劇的に変わるところがある。個人情報のところさえクリアできれば、どんどん活用を進めていくべきだと思う。後は、生成 AI が実際と異なることをもっともらしく言うところを、技術的なところでクリアできれば、どんどん活用していくのがいいのだろうと考えている。国も積極的に推奨しているため、その様子を注視していきたいと考えている。

会 長 他の委員の方から意見がないようであれば、私から 3 点質問をする。

1 点目は、令和 7 年度から令和 8 年度の運営方針にかけて、何か大きく変更しようかと思っている点や、少しこのあたりは行き詰まっているため見直したいと思われる点はあるか。2 点目は、令和 7 年度の報告書を見て思ったが、様々な会議について、非常に回数が多い状態だ。これだけこの回数を実際やらなくてはいけないのか、何か少し減らす方法を考えることも業務効率化に関わってくると思うが、検討されているのか。3 点目が、令和 7 年度の報告書にあった、在宅介護支援事業所連絡会議について、3 回実施されたものが書いてあったが、内容の設定はどのようにしているのかという点が少し気になった。なぜかと言うと、開催することで、居宅介護支援事業所の資質向上と連絡調整と書いてあるが、テーマの選定や実施したことによる効果、本当に資質向上に繋がっているのかどうかというところから会議を見直す必要があるのではないかと思い質問した。

事務局 運営方針に関して、全体的に変えるところはないと思っている。大枠の中でどのようにやっていくかという点は、本当に課題が多くあると思うが、その大枠の運営方針自体を変えることは考えていない。

会議の開催数に関してだが、ご意見の通り、会議の開催に労力がかかっているところは現実としてある。一方、個別のケース対応は今後もなくならない中で、スキルの向上や情報共有は欠かせないと思っており、そのために会議を開いている。3 点目のご質問にあった、資質向上と連絡調整に繋がっているのかということに関しては、場合によっては会議 1 回 1 回に、きっちりと向き合うだけの余裕が常にあるかと言われれば、おそらく実施して終わってしまっていることもあるのかもしれない。

テーマに関して、市内もしくは委託にて介護プランを作ってくださっている居

宅介護支援事業所ケアマネジャーへ、年度末にアンケートをとり、どのようなことを学びたいかを聞き、テーマを考えている。回数に関しては、今後検討していきたいと思う。

会 長 運営協議の場であるため、できるだけ離職予防につながるようにしたほうがいいと思う。効率化できるところは効率化を図って。また、会議は事前準備や、その場に行くだけでも時間がかかる。それらに加えて個別ケース対応なので、それはみんな辞めたくなると思う。AIのような新たな技術に頼るという側面もあるでしょうし、そういうのは実態を見ないと業務整理できないだろうと思うので、そのために次に何をしないといけないのかを、この会議でぜひディスカッションできればよいのではないかと思った次第だ。

他に先生方で何かございましたら、どうぞよろしくお願いします。

委 員 私は今日こちらに来るまで、訪問診療をしていたが、ちょうどケアマネジャーとばったり会い、担当している方がショートステイで物を詰まらせ、結構大変だったという話を少し伺いました。

AIを使う等の話もあったが、ケアマネジャーの方も相当忙しい中で、私達に連絡してくださっていると思っている。そのあたりも我々医師の連絡の効率化というのも、デバイス等を使えば、もっと良くなるのではないかと思ったところだ。少し今日の議題と関係はないかもしれないが、そう感じたところだ。

会 長 情報の伝達については、効率化もそうですし、言ったつもりでも相手に伝わっていなかったということは、日々の支援の中であると思うので、ご検討いただきたい。